

【追加資料4】 建替費用等について (1/4)

Q1. 建替え費用は、いくらくらいかかるのか？

A1. 近年、他自治体の学校建設では、**単価は40万円/m²前後**となっており、本市第一中学校区の学校づくりについては、現計画での単価は約39万円/m²となっています。

補足

「交野市学校施設等管理計画」では建替えに係る単価を33万円/m²と設定していますが、建替え単価は建築需要や景気の動向等により、毎年度変動しており、**近年は単価が増加傾向**にあります。

注意

建替え単価は、新しい校舎等の建築費及び既存校舎等の解体費、設計費等について設定された単価です。その他、土木・造成費用、施工管理費等は含んでいません。

建替え単価：40万円/m²で計算した場合

<星田小学校を建替える場合> ※現在の学校施設と同じ延床面積の場合

$$4,916 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 19 \text{ 億} 6,640 \text{ 万円}$$

<妙見坂小学校を建替える場合> ※現在の学校施設と同じ延床面積の場合

$$5,862 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 23 \text{ 億} 4,480 \text{ 万円}$$

<旭小学校を建替える場合> ※現在の学校施設と同じ延床面積の場合

$$5,200 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 20 \text{ 億} 8,000 \text{ 万円}$$

<小学校の統合校を新築する場合>

$$7,206 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 28 \text{ 億} 8,240 \text{ 万円}$$

交野みらい小学校（交野小学校と長宝寺小学校の統合校）と同じ面積の場合
（長宝寺小学校5,830 m²+統合に伴う仮設校舎約1,376 m²）

通常の学級数で
24学級は
許容可能な施設面積

<第三中学校を建替える場合> ※現在の学校施設と同じ延床面積の場合

$$8,788 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 35 \text{ 億} 1,520 \text{ 万円}$$

<施設一体型小中一貫校を新築する場合> ※第一中学校区の施設一体型小中一貫校と同じ面積の場合

$$15,870 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} = 63 \text{ 億} 4,800 \text{ 万円}$$

※上述の試算額は、**設計・建替え・解体に要する費用のみの試算**であり、**その他の経費は一切含んでいません。**

【追加資料4】 建替費用等について (2/4)

Q2. 建替えの期限は？ いつまでに建て替えが必要なのか？

A2. 築後〇〇年で建替えなければならないといった具体的な期限はありませんが、平成23年度における全国の学校施設の改築までの平均年数は、鉄筋コンクリート造の場合、おおむね42年※1となっています。

実際の施設更新にあたっては、学校施設の老朽化や劣化状況等を確認しながら、今後見込まれる使用年数に合わせて、建替えも含めた中で最適な改修工事を行う必要があります。

※1 学校施設の老朽化対策について～学校施設における長寿命化の推進～（文部科学省）
(https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/03/18/1131926_01_1.pdf)

補足1

施設更新にあたっては、建替えの他にも、建替えよりも安価で行うことのできる長寿命化改修などもあります。

⇒ 長寿命化改修：3ページに記載

補足2

第三中学校区の各学校

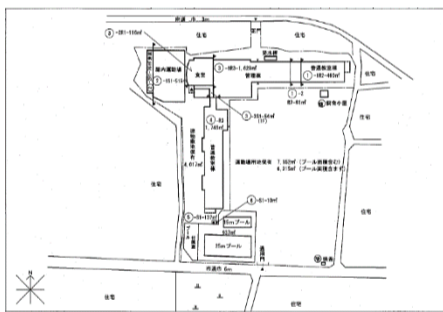
校舎：鉄筋コンクリート造（小規模工作物等は除く）

屋内運動場：鉄筋コンクリート造（妙小・旭小・三中）、鉄骨造（星小）

< 第三中学校区の各学校の校舎 > ※各学校の最も古い校舎の築後年数を記載

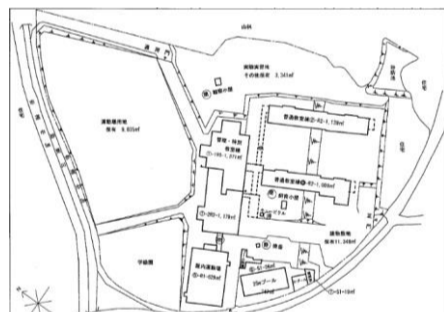
R2.3時点

星田小学校



建築後58年

妙見坂小学校



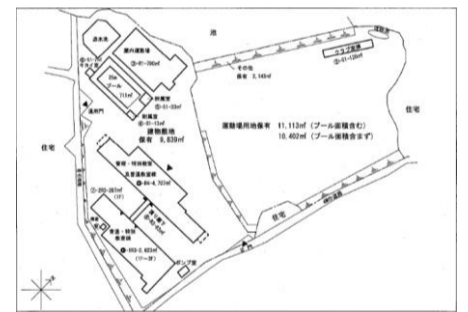
建築後46年

旭小学校



建築後43年

第三中学校



建築後45年

鉄筋コンクリート造の学校施設では、改築までの平均年数が42年であることを考えると、**第三中学校区の学校施設は、いずれも施設更新の時期を迎えている**といえます。

特に星田小学校では、建築後58年を経過した校舎があるなど、学校施設の老朽化対策が急務となっています。

Q3. 改築までの平均年数を超えているが、建物の安全性は大丈夫なのか？

A3. 全ての学校で耐震安全性は確保されているため、**建物の安全性は確保されています。**

ただし、構造躯体の老朽化は、時間の経過とともに確実に進行するため、必要な調査等を実施し、施設の老朽化や劣化状況等を把握しながら、**適切な時期に施設改修を行う必要がある**と考えています。

【追加資料4】 建替費用等について (3/4)

Q4. 老朽化した学校施設は建替えるしかないのですか？

A4. 学校施設の改修は、建替え以外にも長寿命化改修という方法があります。

工事種別	こんなときに行う改修
建替え	校舎の位置を変えたり、一から新しくつくりたい
長寿命化改修	校舎の位置や構造躯体はそのままで、構造躯体の長寿命化を図りながら、施設を新しくしたい

Q5. 長寿命化改修とはどのようなものか？

A5. 長寿命化改修とは、老朽化した建物について、物理的な不具合を直し建物の耐久性を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を行うことです。これにより、建物を将来にわたり長く使い続けることができます。

【メリット】

構造躯体（柱、梁、壁、基礎等の構造耐力上主要な部分）を再利用する長寿命化改修では、構造躯体の新築工事がないたため改築と比べると、解体量が大幅に削減され、工期も短縮されるため、4割程度のコストダウンにつながると考えられます。

【デメリット】

柱・耐力壁などの既存躯体を利用するため間取りの変更に制約が生じる場合があります。設計及び施工上の制約が多いことがデメリットとなります。また、構造躯体の劣化状況調査の結果（長寿命化に適さないと判断された場合など）によっては、国庫補助事業の対象とならない場合があります。

【その他】

長寿命化改良事業の国庫補助を受けるためには、改修の規模など様々な条件がありますが、中には長寿命化改良事業の対象となる建物の条件として「**今後30年以上使用する予定のもの**」という条件があり、長寿命化改良事業では、設置者が今後30年以上使用することを見越した工事を行うことが前提となるため、中長期修繕計画を作成する必要があります。

【追加資料4】 建替費用等について (4/4)

■ 参考試算 ～長寿命化改修の場合～

現状の学校配置（3小1中）を維持したまま、すべての学校で長寿命化改修工事を実施した場合の改修費用

長寿命化改修のコストを改築の6割（4割減）とすると...

$$\begin{array}{cccc} \text{星田小学校} & \text{妙見坂小学校} & \text{旭小学校} & \text{第三中学校} \\ \hline (4,916 + 5,862 + 5,200 + 8,788) \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円/m}^2 \times 60\% \\ = 59 \text{ 億} 4,384 \text{ 万円} \end{array}$$

■ 施設の維持管理費

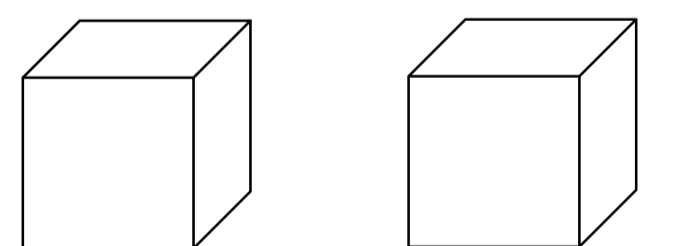
学校施設の維持管理費は、延床面積が大きいほど、また学校数が多いほど高くなると考えられます。理由は以下のとおり

- ・延床面積が大きいと、修繕・改修等の維持管理の必要な面積も大きくなる
- ・各学校に必要な特別教室（図書室、理科室、音楽室等）は、学校数が減ると減少すると考えられる
例. 図書室が1校当たり1室とすると、4校では4室、3校では3室となる
- ・1校に1つでよい設備は、学校数が多いほど数が増える 例. 受変電設備
- ・学校数が多い場合を少ない場合と比べると、延床面積が同じでも外壁等管理の必要な表面積が増加すると考えられる

例. 学校数と維持管理の必要な外壁面積について

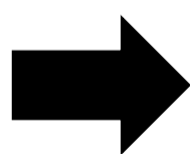
5,000 m²の学校2校と、10,000 m²の学校1校を比べると...

< 5,000 m²の学校2校 >

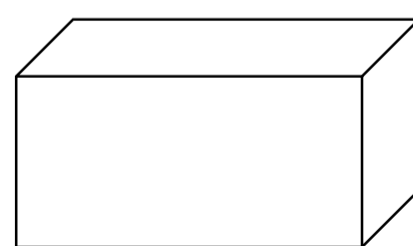


延床 5,000 m²

延床 5,000 m²

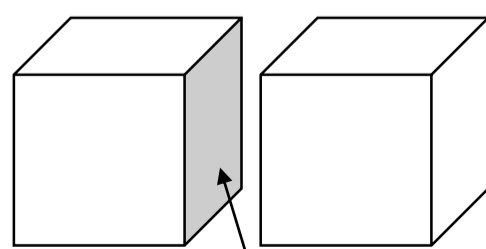


< 10,000 m²の学校1校 >



延床 10,000 m²

2面分の維持管理
の必要な外壁面積
が減少する



この面 × 2

※ただし、1校でも校舎を5,000 m² 2棟に分けている場合は、上の例では2校と維持管理の必要な外壁面積は同じになる。